

令和2年9月4日

保護者様

京都市立神川小学校  
校長 松本 和文

## 新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止について

平素は神川小学校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、8月25日付で文部科学大臣から、下記の内容の差別・偏見の防止を呼び掛けるメッセージが発出されています。子どもたち、保護者様向けのメッセージの趣旨をご理解いただき、ご家庭でお話しいただけたらと思いますので宜しくお願ひ致します。

記

### ▶児童のみなさんへ

新型コロナウイルスが広がってから、みなさんは学校がどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないか。新しい学期をむかえるにあたって、みなさんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかかるないようにするには、いくつかの方法があります。すでにみなさんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には、学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまででもみなさんは風邪をひいたり、インフルエンザになりました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後みなさんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だとわかったら自分は大丈夫かなど不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなってしまっても、その後は言い出しにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらにみなさんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちをもち、感染した人たちが早く治るようはげまし、治ってもどってきたときには温かくむかえてほしいと思います。もし、自分が感染したり、症状があつたりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに感染した人たちが心ない言葉をかけられたり、あついをされたりしているという事例が起きています。こうしたことがみんなの周りでも起きないように、みなさんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることができないよう思いやりの気持ちをもってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、みんなの日々の生活は一変したと思います。

以前のようには友達を会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスをかかる人も多いでしょう。

これまで私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そうして私たちは、病気と共に存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになります。新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、みんなの応援団として、将来の見通しをもち、未来の社会の担い手であるみんなが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、みんなは今自分ができる予防をしっかりと行い、将来の目標をもち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一

## ▶保護者や地域の皆様へ

学校において、児童の学びを確保するための取組を進めることができますのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組にご理解とご協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対するご理解とご協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。

これから予測困難な時代を生きていく児童が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続へのご理解とご協力を願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一